

様式(細則 5-2)

平成 23 年 10 月 14 日

浜田市議会議長 牛 尾 博 美 様

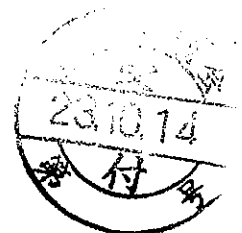
議員名 牛 尾 博 美 

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 23 年 7 月 31 日 ~ 8 月 3 日
2. 視察又は訪問先 福島県相馬市、南相馬市
3. 調査経費 25,477 円
4. 調査研究活動の概要 別添のとおり



相馬市視察・相馬市長訪問・被災地ボランティア報告書

提出者 牛尾 博美

期日：平成23年7月31日～8月3日まで（4日間）

参加者：10名

牛尾博美・川神裕司・佐々木豊治・布施賢司・岡本正友・平石誠・芦谷英夫
西田清久・笹田卓・江角敏和

* 川神議員、平石議員、芦谷議員は、現地で合流。行きのレンタカーは7名、帰りは9名。芦谷議員は帰りも別の交通機関。

目的：被災地でのボランティア作業して体を動かし、被災された皆さんの声や教訓を伺い・NPOの皆さんとの意見交換会し、復旧の状況や今後の支援のあり方などさらなる支援のあり方を検討する。また被災地の視察をし、相馬市長の訪問を予定。見聞や体験をこれからの浜田市における防災へ活かす。

行程；

浜田道 中国道 名神 北陸道 磐越道 東北道 （レンタカー使用）

7月31日（日）

13時50分 浜田市役所出発

8月 1日（月）

6時40分 相馬市着

沿岸被災地視察

8時 南相馬市着（相馬市でのボランティアがなかった為）

8時30分 南相馬市生活復興ボランティアセンター

9時30分 穴戸正さん新作業所の整理作業に出発

15時30分 作業終了 ご苦労様でした

15時50分 ボランティアセンター着

借りた道具類、トラック2台、返却

被災地視察

17時10分 岬荘着

18時 JR相馬駅 川神・平石議員合流

8月 2日 (火)

8時	海に近い高台にある岬荘前で女将と写真撮影。出発後に見た巨大津波の来襲のビデオはここで撮影された。 被災地視察
9時30分	相馬中村神社。NPO相馬行胤(そうまみちたね)様 川島麻沙美様からの報告と意見交換。
13時	南相馬市、近隣の被災地視察。
15時55分	相馬市議会 波多野広文議長に面会
16時05分	相馬市 立谷秀清市長に面会。 震災、津波発生時からの対応や教訓などの状況説明を受けた。 意見交換会。
16時40分	相馬市役所出発
21時50分	新潟ステーションホテル着

8月 3日 (水)

8時	ホテル発
20時35分	浜田着

調査地；

福島県相馬市は県東部の宮城県境に位置し、東は太平洋に面し、人口38、000人面積197平方キロの「相馬野馬追」で有名な鎌倉時代からの長い歴史を持つ城下町。農業は米を主とし、福島県沿岸漁業生産額、80億円の内50億円は相馬漁港で水揚げしている。現在重要港湾相馬港を開発拠点としてその背後に相馬中核工業団地を造成し企業誘致を積極的に進めている。

ボランティア作業 南相馬市

8月1日(月) 午前9:00～午後3:30

南相馬市社会福祉協議会の南相馬生活復興ボランティアセンターで初めて参加するボランティアの列に並ぶ。後にいた岐阜から来た男性が「1ヶ月前東松島で島根の浜田の20歳くらいの女性もボランティアできていました。」浜田の人も様々活躍しているな。みんながとても嬉しい気分になった。

グループで作業できるということで南相馬の突戸建具店を紹介された。津波で作業所が流され、別の場所に工場を借り、その借りた工場の周りを整備、片付けの作業。軽トラック2台を使い泥、木材、鉄くずなどに分け廃棄物処理場に運ぶ。約6時間の大変な作業にもかかわらず浜田市議会チームは汗びっしょりになって働いた。みんなよく動く。たいしたもんだと感心した。突戸さんたちも感謝してくれた。喜んでくれ、「これでまた生きてける」そう言ってわれわれを見送ってくれた。みんな疲れていたがそれぞれが充実していた。こうしたフットワークのよさを浜田市民のために役立てていくことが議員として必要なことだ。被災された地域の復興はこれからだ。引き続き支援の輪を広げていかなければならない。

NPO馬とあゆむSOMAと意見交換

相馬中村神社で相馬家33代当主相馬和胤氏の長男、相馬行胤さん。相馬中村神社、川島麻沙美さんと震災後のNPOとしての市民に対する支援の状況、被災地として全国からの支援される側のお話を聞く。

携帯は使えなかったがメールはOK。フェイスブックで食べ物、水の確保に奔走した。ボランティアの受け入れ、全国からの物資の受け入れを行政のトップの市長とともに協力して対応した。行政は10個送られてきたら100個になるまで配らないがわれわれは10個きたら少量でも配る。SOSライフセーバーさんの大きな協力を得た。浜田市をはじめ多くの自治体が救援物資を送ってくれた、また100日間毎日パンを1,800個作ってくれた広島の高ギベーカーリーには感謝しています。自分たちの立ち位置を考え、スピードある行動力ができたのは日ごろの旧相馬藩の有事に備える気風ができていないだろうか。

有事には強いリーダーシップが必要。どんなときでも守ってくれる人を選ぶことのできるのは選挙であり、有権者の人たちだ。今一度選挙の大切さを考えるべきだ。川島さんは「今後の大きな課題は小さな子供たちのこと。特に水や食べ物については放射能にもっとも注意しなくてはならない。この災害を忘れないで継続的な支援をしてください。」

波多野広文南相馬市議会議長と面談する。

遠くからありがとうございました。

もう突然の大惨事で当時は議員がどうなっているのか生きていいのかまったくわからない状態でした。議会としていまやっと活動ができたばかりだ。今後ともよろしく願います。

立谷秀清相馬市長との意見交換会

相馬野馬追が伊達藩との戦いに備える軍事訓練で400年の歴史からこのたびの震災でも有事に備えているのでこの気風はDNAとして伝わっており、今回の震災でも市民は毅然としていた。

わたしも医師として亡くなった遺体を診たが溺死は少なくはほとんどが水圧による圧迫死だった。

重症者は少数で軽症で助かるか即死状態で亡くなるかそれほどすさまじい津波だった。震災直後の災害対策の基本は「次の死者を出さない」こと。生存者の救出、生きるための水、食料が必要だった。避難者の状況把握は住民基本台帳の突合せをした。まさに地方自治の原点は戸籍の番人ということだ。

相馬市の地域再生は後でよく考えてみると震災後から48時間ですでに基本的な考えは決まっていた。震災の対応、担当課の割り振り、地域再生の取り組みなど。救援物資は他の自治体から続々送られてきたが、友人の市長たちがいち早く対応してくれた。日ごろの付き合いがいかにお大事であるかよくわかった。いまだに4000人が仮設住宅だ。

何がわれわれにできるかとの質問に市長は浜田の1夜干しのイカでもどうかと具体的に提案された。

昨日宿泊した岬荘から撮った巨大津波が相馬の港を襲ってくるその時のビデオを見ながらの説明だった。

「これ以上、決して市民を死なせてはならない。」それが私の使命だ。そんな力強い立谷市長の言葉に自治体リーダーの在り様を感じた。

このような体験と被災された方の生のことば、くうきをこれからも忘れず、支援の活動をひきつづき継続していくこと。

浜田市民をまもるためには何が必要なのか。これからの議員活動に活かして生きたい。